2017年4月13日

ブラジルの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を11.25%に引き下げ

4月12日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を1%引き下げ、年率11.25%とすることを決定しました。利下げ幅は前回および前々回の会合の0.75%から拡大しました。

3月末に同中銀が公表した「四半期インフレ報告」において、利下げペースの加速が示唆されていたこともあり、今回の決定は、大方の市場参加者の予想に沿うものでした。

ポイント② 利下げペースを加速

引き続き良好なインフレ見通しおよびブラジル経済を取り巻く不確実性を考慮し、同中銀は利下げペースの加速を決定したものと考えられます。

足元のインフレ率（拡大消費者物価指数）は引き続き低下しており、3月は4.6%と同中銀の目標値である4.5%に近い水準となりました。同中銀はインフレ動向について、「望ましい状況が続いている」としています。また、今後の見通しについて同中銀は、市場参加者が予測する政策金利水準（2017年末に8.5%まで低下し、その後2018年末まで同水準に留まる）を前提として、2017年および2018年のインフレ率をそれぞれ4.1%程度、4.5%程度と予想しています。

一方、ブラジル経済について同中銀は、短期的に安定化し、2017年を通じて経済活動は徐々に回復すると見ているものの、世界経済の見通しについては「依然として極めて不透明」としています。「米国をはじめとする大国の経済政策変更の可能性がブラジル経済に及ぼす影響は今のところ軽減されているが、世界経済の成長の持続性および現在の商品価格水準の安定性については不確実性がある」と述べています。

ポイント③ 為替相場への影響は限定的

4月12日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比0.4%程度のブラジルレアル高、対円で同0.1%程度のブラジルレアル安となりました。

同中銀のインフレ見通しを背景に、引き続き多くの市場参加者は追加利下げを予想しています。

重要イベント

- 5月1-2日　貿易収支(4月)
- 5月10日　拡大消費者物価指数(4月)
- 5月31日　金融政策発表

図1：政策金利の推移

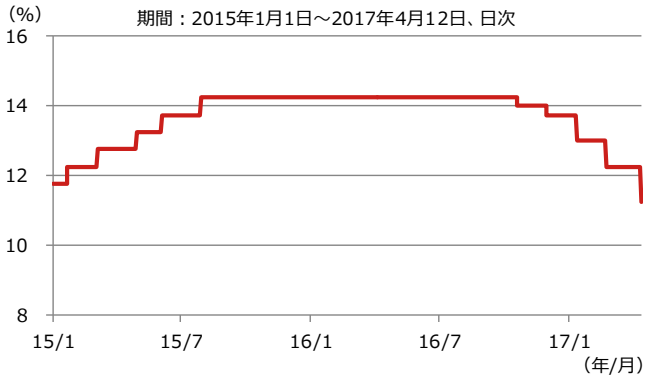

図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

図3：為替レートの推移

（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

NOMURA 野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。